

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会
(事務局：全国私立学校教職員組合)
No.15 2020年10月2日(金)

高校生に学ぼう!!

「コロナ禍だから」…できることを模索して取り組んで世論化! そして前進! 岩手

岩手県私学フェスティバル実行委員会「私学助成学習会」

(2020年9月19日(土)・13:30~15:30・水沢第一高校)



公立・私立間の助成格差 生徒が現状調べ発表 水沢一高会場に学習会

公私間の助成の格差をなくすために、学院水沢第一高校で「私学助成」開かれた。県内の私立高校6校から生徒と教員37人が集まり、助成制度をめぐる現状

などを発表。私学助成金の増額を求める署名運動も展開し、10月に県庁へ提出する予定。



公私間格差の現状を話し合った私学学習会



岩手では私学助成運動の一環として毎年「私学フェスティバル」を開催しています。県内4カ所を持ち回りで開催していきます。今年は南奥州市で水沢第一高校が担当して開催する予定でした。

しかし、全国に及んでいる新型コロナウイルス感染症の影響で今年の開催を見合わせることを判断しました。

…ならば 替わりのことを

しかし、岩手の高フェス実行委員会は、「新型コロナウイルス」に屈しませんでした。外へのアピールの場としての「フェスティバル」は困難でも「私学助成運動の灯をつなごう」とフェスに参加する私立高校生による「私学助成学習会」企画しました。

6校の高校生が 学んで主体者に

当日は、盛岡誠桜、盛岡スコーレ、専大北上、水沢第一、一関修紅、一関学院から高校生28名、教員11名が参加しました。それぞれの学園での私学助成署名運動のとりくみを報告しました。盛岡誠桜と一関修紅はパワーポイントを活用して制度や取り組みを紹介しました。

報告後は「生徒会に私学助成の組織があるか?」「生徒たちにどのように話したら署名や葉書に協力してくれるようになるか?」「私学助成に対する意識を高めるためにはどうすればよいのか?」「回収率の高い学校では、どのような取り組みを行ったのか?」など熱心な質疑応答がありました。交流が深まるとともに参加高校生が私学助成制度及び運動を「ジブンゴト」としていく場面となりました。

そして、地元紙でも報道されました

定。同学習会は、県内私立高校持ち回りで毎年開催している。県内私立高校の魅力発信するイベント「私学フェスティバル」が今年、同校の担当で開催する予定となっていたが、新型コロナウイルスの影響で中止に。このため今回の学習会は、フェスティバル実行委員会が主催するスタイルで行われた。



(2020年9月21日(月)付「胆江日日新聞」)

大人も負けずに「拡がる、つながる」運動に踏み出そう!!